

西公民館

三世代交流
カルタクラブ活動

毎月、第2土曜日の9時30分より、小中学生に呼びかけて、三世代交流カルタクラブ活動を実施しています。今回は21名の参加者を得て盛大に行われました。

お世話してくださるのは、老人会の篠崎雅一さん、田中貢さん、佐々木高雄さんです。佐々木さんの読み声に合わせて、三つのグループでは一斉に火花が散ります。上級の部では、上の句を読み始めると下の句が分かっている方がいるようです。緊張して火



▲緊張の一瞬



▲真剣勝負

花の散る一瞬を重ねながらも、和気あいあいのうちに次々と歌が読まれていきます。

カルタによって、日本古来の百人一首などの伝統文化に接する機会が増えればと願っています。

各級の優勝者3名には優勝盾と豪華な賞品が渡され、各級のラッキー賞が1名ずつ3名に渡されました。最後に全員に参加賞が渡され終わりました。

次回も大勢の皆さんの参加をお待ちしています。

▼かるたクラブの皆さん



各級の優勝者

初級の部

仲島 慎太さん

中級の部

谷本 吉毅さん

上級の部

畑 美里さん

補導センターだより

街頭の守護神

松前小学校生徒指導主事

岡田 修司

「おはようございます！」
「おはよう！気をつけてお行きよ。」

朝の静寂の中で響き合う元気なあいさつと、それを包み込む優しい心遣い。温かい光景とともに一日がスタートする。小雪が舞う寒い日も、照りつける暑さの日も、激しい風雨にさらされる日も、それが途絶えることはない。子どもが登校する朝は、何があるかと一人ひとりの安全を見守ってくれる。そんな奇特な方々が、松前校区内にはいらっしやる。

交通安全指導員さん。現在14名で、校区内の交通の要所を守っている。ボランティア活動としてなかなかやり通せるものではないだけに、その献身的な活動ぶりにはただただ感服させられる。

そんな中、胸の痛む出来事が突発した。交通安全指導員さんの中でも最高齢の三本茂春（81歳）さんが、指導中に転倒し、腰骨骨折という大怪我をされた。一番早い時刻

から交差点に立っていらした三本さん。昭和36年から、実に40年間も交通安全指導員を続けてこられた守護神的な存在だ。毎日のことであるため、ついついその「ありがたい」を忘れてしまいがちだが、入院された今、あらためてその存在の大きさを痛感する。「もつとご一緒に活動しておけば……。」

せめてしばらく代役でもと、毎朝あの交差点へ足を運ぶ。

「あのおじちゃんはや？」
子どもたちが気遣う。

「怪我されたんだってなあ。」

通る地域の方々も、一日も早い全快を願っている。今までもただけ頑張ってこられたか、ちゃんと知っている。

「そろそろ、引退させてもらおうと思っていたのですよ。」

病室でポツリと話される三本さんに、私は強く念じている。街頭の守護神として未永く活躍されることを。